

ひとのあいだ

2024年9月4日
備前市立日生中学校

「ひとのあいだ」は、日生中学校の様子(学校・生徒の取り組み)を知っていただき、ご家庭と連携・協働していくため、そして(地域と共にある学校)の取組の一環として随時お届けします。

山陽新聞(9/4)の記事を紹介します。また、取組は、NHKデジタルやひなビジョンでも視聴することができます。

災害時の食事イメージ

日生中で防災給食

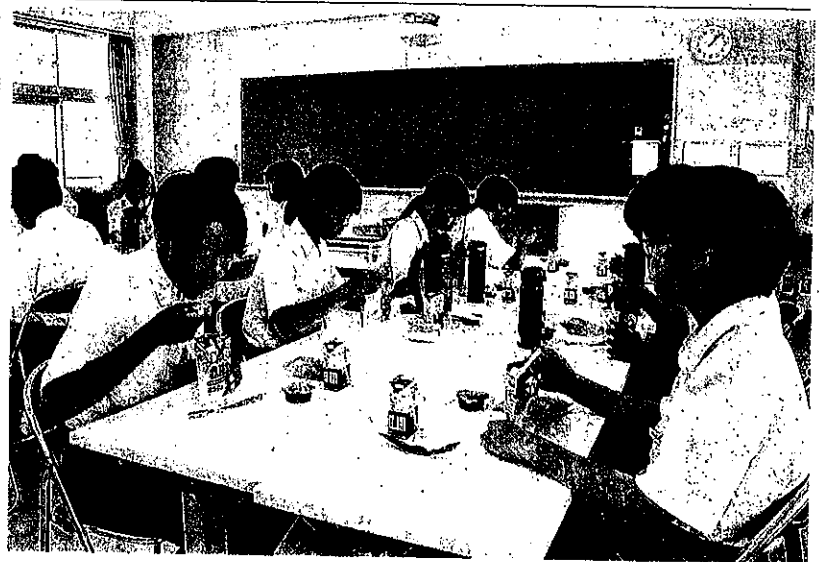
レトルトや乾パン「慣れも大切」

備前

災害に備えて備蓄している非常食

食を食べる「防災給食」が2日、備前市日生町日生の日生中で行われ、生徒がレトルトのカレーライスなどを味わって防災意識を新たにした。

メニューは、食物アレルギーの原因となる原材料28品目を使用していない全国学校栄養士協議会(東京)開発の「救給カレー」と、乾パン、ゼリー、牛乳。2年生30人が集まった給食ルームでは給食担当の生徒2人が「ライフラン」が止まれば普段の食事ができなくなる。災害時の食事をイメージして家族や友達と防災について話し合うきっかけにしよう」と呼びかけた。生徒はカレーの封を



非常食を味わう日生中2年生

切って直接、スプーンを使って口に運んだ。乾パンは一つ一つ食べた。長棟弘祐さん(13)は「カレーは温かくないし、量も足りない。乾パンは味があまりしない。でも災害時にわがままも言えないので、非常食に慣れておくことも大切だと思」と話した。

市内の各小中学校は年1回の「防災の日」にちなんで行っている。日生中は1日(平田知也)

岡山 NEWS WEB

小中学生が「防災給食」災害時の食事考える 備前日生町

09月02日 16時30分

子どもたちに災害時の食事について考えてもらおうと、備前市日生町の小中学校で、非常用に備蓄しているレトルトカレーなどをメニューにした「防災給食」が提供されました。

この取り組みは、9月1日の防災の日に合わせて、子どもたちに災害

時の食事について考えてもらおうと、備前市日生町の小学校と中学校で行われました。

このうち日生中学校では、学校で非常用に備蓄している食品が給食として出され、給食委員の生徒が「食べ物に感謝し、防災に対する意識を高めていきたいと思います」と呼びかけました。

生徒たちは「いただきます」とあいさつをして味わいました。

メニューとしては、ごはんや野菜が入って常温のまま食べることが出来るレトルトカレーと、ゴマ入りの乾パンといった非常用の食品に加え、ゼリーや牛乳が出されました。

生徒たちは1食ずつ梱包されたカレーの袋を開けて味わい、中にはおかわりをする生徒もいました。

防災給食を味わった生徒は「とても美味しかったです、ふだんのあたたかな食事のありがたさも良く分かりました。これをきっかけに、災害が起きた時のことを考えていきたい」と話していました。

